

日本産業衛生学会

関東地方会ニュース

(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室・TEL(0422)47-5512 内 3454・FAX(0422)44-0841・発行責任者／角田 透



一般的な雑草除去作業においても発塵や異物の飛散に加えて機器からの騒音と振動があるので、防塵マスク、保護眼鏡、ヘルメット、耐振動手袋、耳栓、脛当て等の保護具装着が重要。あわせて炎天下での作業の場合は熱中症対策も大切。

(文と写真:宮本俊明)

巻頭言

日本産業衛生学会 関東地方会 会長 角田 透
(杏林大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 教授)



少し前の話になりますが、国会では国民投票法案の議論が盛んに行なわれました。国の将来を決めるのに、国民の直接投票の道を開くもので極めて意義深いことでもあります。普段、日常生活

に埋没していると、国家について考える、というような機会はほとんどありません。となると、このような国について考える機会は大変貴重なものと思われま

さて、皆さんよくご存知のとおり、明治政府は国家の根幹のひとつを産業振興にあると考え、殖産興業を前面に押し出し、大規模な投資を行ないました。産業は国の富の源泉であり、国力増強のためにとにかく進めて行かなければならなかったのでしょう。現在もその状況には大きな変化はないようで、聞くところによれば、石油資源の豊富なお金持ちである中東の国々も産業振興には相当力を入れているよう

私達の産業衛生学会は、直接に産業の振興を図ることを目的にしているわけではありません。しかし、産業の現場にあつて働く人の身体的精神的健康を衛るとい

私達の産業衛生学会は、直接に産業の振興を図ることを目的にしているわけではありませ

今後とも地方会へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

第 17 回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会のご案内

企画運営委員長 三好裕司 (明治安田生命)

わが国の健康水準は、質の高い医療サービスが利用しやすい環境にあること、地域・職域での健康診断を中心とした健康の保持・増進の仕組みが優れていること、私たちの生活の質が長期にわたって高い水準を維持できていること等により維持されていると考えられます。

産業保健は職域を対象として国民の健康向上に大きく貢献してきました。その役割は職業病対策や健康管理にとどまらず、最近の過重労働による健康障害防止対策の流れの中で労働のあり方をも変えるものとなってきています。

健康管理の中で健康診断は中心に位置するものですが、そのあり方についても超高齢化社会を視野に入れた医療構造改革において見直されています。エビデンスに基づいたものであることは重要なことですが、治療偏重の医療から疾病予防にも目を向けた保健医療体系への転換に資することが健診に求められています。

折しもメタボリック症候群が注目される中、内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防のための「特定健康診査」と「特定保健指導」が平成 20 年度より医療保険者(健康保険組合等)に義務付けられることになりました。以前から産業保健の現場では保健指導と健康増進の推進が努力義務の形で実施されてきましたが、これからは「高齢者の医療の確保に関する法律」と如何に調和・協調していくか、言い換えれば職域と地域との調和をどのようにすすめるか、さらには健康診断と保健指導を事業者と健保組合がいかに関わり分担していくか、ということが重要なテーマとなるでしょう。

2007 年 11 月 2 日から 4 日にかけて、東京プリンスホテルおよび東京慈恵会医科大学を会場に「これからの健康管理・産業保健を求めて」というメインテーマを掲げ、第 17 回産業医・産業看護全国協議会が開

催されます。健康診断、保健指導、ひいては医療全体が確実に変貌を遂げる転換期に、新しい法律の施行もふまえて、これからの健康管理・産業保健に向けて着実に歩んで行かなければなりません。

本協議会ではシンポジウム、ワークショップ、ポスターセッション等により、生活習慣病、メンタルヘルス、海外赴任者の健康管理、中規模事業場における健康管理等に関わる企画を通して、新時代への対応、よりよい健康管理・産業保健を求めて行きたいと考えています。

日本産業衛生学会の集会は春の学術集会と秋の産業医・産業看護全国協議会があります。協議会が学術集会を縮小したミニ学会ではない特徴として、今秋は、疫学的手法などを要する学術発表だけでなく、それぞれの事業場で日々実践している取り組みの紹介など、実務的な内容の発表を歓迎します。ポスターセッションではコアタイムに他のプログラムを入れず、学会員の交歓ができるよう配慮しました。

関東地方会の皆様には、1000 人以上が参加すると思われる協議会を実り豊かなものとできるよう、支えてくださいますようお願いいたします。

協議会の組織

主催: 日本産業衛生学会 関東地方会

日本産業衛生学会 産業医部会・産業看護部会・産業歯科保健部会

共催: 東京都医師会、海外勤務者健康管理全国協議会、(財)パブリックヘルスリサーチセンター

後援: 東京内科医会、東京都社会保険労務士会

スタッフ 企画運営委員長: 三好裕司

企画運営副委員長: 福本正勝・神保恵子

実行委員: 大野明彦・川名一夫・五味秀穂・清水靖仁・武田桂子・谷山佳津子・中野愛子・中野幸子・西澤洋子・深澤健二・森田美保子

第 17 回 日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会 プログラム

11 月 2 日(金)

実地研修(職場巡視)	
13:00～15:00	全日本空輸(大田区 羽田空港)
14:00～16:00	朝日東京プリンテック築地工場(中央区 築地)、JR東日本(品川区 大井町)、JFEスチール(神奈川県 川崎市)

11 月 3 日(土)東京プリンスホテル

A会場 (プロビデンスホール)	B会場 (マグノリアホール)	C会場 (サンフラワーホール)
開会式 8:55～9:00		
会長講演 9:00～9:30 これからの健康管理・産業保健を求めて 三好裕司 座長:矢野栄二		ポスター貼付 9:00～10:00
メインシンポジウム 9:30～11:45 特定健康診査・特定保健指導と健康管理 -生活習慣病へのアプローチ- 座長:小林廉毅、柳澤裕之		ポスター展示 10:00～15:00
ランチョンセミナー1 12:00～12:50	ランチョンセミナー2 12:00～12:50	
シンポジウム I 13:00～15:00 産業保健における特定保健指導のあり方 -生活習慣病・メタボリックシンドロームの保健指導- 座長:武田桂子、神保恵子	シンポジウム II 13:00～15:00 職場のメンタルヘルス:第二、三次予防 の到達点と課題 座長:下光輝一、川名一夫	
		コアタイム 15:00～16:00
フォーラム I 16:00～18:00 海外赴任者の健康管理 座長:小木和孝、五味秀穂	シンポジウム III 16:00～18:00 口腔保健と生活習慣病 座長:東 敏昭、藤田雄三	ポスター展示 16:00～17:00
	専門医認定証授与式 18:00～18:25	ポスター撤去 17:00～18:15
D 会場 懇親会 (東京プリンスホテル 3 階 ゴールデンカップ) 18:30～		

11 月 4 日(日)東京慈恵会医科大学

E 会場(中央講堂)	F 会場(大学 1 号館実習室)	G 会場(大学 1 号館講堂)
シンポジウム IV 9:00～11:15 職場のメンタルヘルス:第一次予防の到達点と課題 座長:川上憲人、深澤健二	リレーワークショップ 9:00～11:15 働く人の健康(元気)を生み出す組織(職場)づくり(4) 座長:広瀬俊雄、和田晴美、中明賢二、田畑正司、井出玲子	関東産業医部会 産業医特別研修会 9:20～16:40 進行:大野明彦、西澤洋子、宮越雄一
教育講演 11:20～12:20 産業保健と企業活動のニューパラダイム:CSR and Productivity 武藤孝司 座長:角田 透		
ランチョンセミナー3 12:30～13:20	H 会場(大学 1 号館 5 階講堂)	
フォーラム II 13:30～15:30 中規模事業場における健康管理をどうすすめるか 座長:目澤朗憲、谷山佳津子	産業看護特別研修会 13:30～15:00 座長:小野田富貴子、一木ひとみ	
閉会式 15:30～15:45		

(網掛けは関連企画)

モーニングセミナー、サテライトセミナーも企画中です。決定次第ホームページに掲載します。

事前参加登録:9 月 28 日(金)まで

ジョイント企画・関連企画のご案内

**ジョイント企画 産業医部会・産業看護部会・
産業衛生技術部会・産業歯科保健部会
合同セミナーのご案内**

対象：産業医部会・産業看護部会・
産業衛生技術部会・産業歯科保健部会会員
定員50名

日時：11月1日(木)13:30集合
～ 2日(金)11:30解散

場所：新宿区の印刷会社(予定)
費用：二日間懇親会付(宿泊あり) 17,000円
二日間懇親会付(宿泊なし) 10,000円
最終日(プレゼンテーション)のみ3,000円

研修内容：
事業場を訪問、見学し、事業場で改善すべき点
や、今後の産業衛生活動に取り入れ、参考にしたい
良い事例を取材します。職場の研修室にて各グル
ープで討議し内容を検討します。4～5グループ
に分かれて、グループ討議をしてパワーポイント
にまとめます。翌朝の報告会では、各グループ提
案を行い、職場の人と討議します。

日本産業衛生学会関東産業医部会 産業医特別研修会

主催：日本産業衛生学会関東産業医部会
共催：東京都医師会、慈恵医師会
対象：認定産業医を希望する医師・認定産業医の更新を希望する医師
日時：11月4日(日) 定員：250名
場所：東京慈恵会医科大学大学1号館講堂(3階)
費用：学会員・都医師会員10,000円、道府県医師会員12,000円、
その他14,000円

認定単位数：(申請中)
基礎研修(実地研修:1単位、後期研修:4単位)
生涯研修(更新研修:1単位、実地研修:1単位、専門研修:3単位)

実地 健診後の事後措置とメンタルヘルス対策(事例)
グループ 9:20～10:20(50人×2グループ)大野明彦、穎川一忠
グループ 15:40～16:40(50人×3グループ)大野明彦、穎川一忠、
竹田 透

10:30～15:30 は、グループとも共通
更新・後期 特定健康診査と産業衛生 山川和夫
専門・後期 海外駐在員と乗組員の健康管理 五味秀穂
昼食(ランチョンセミナー券を用意：中央講堂)
専門・後期 職場の心理対策 深澤健二
専門・後期 職場の過重労働対策 竹田 透

産業看護特別研修会

日時：11月4日(日) 13:30～15:00 場所：東京慈恵会医科大学 大学1号館5階講堂

講師：中桐孝郎(日本労働組合総連合会総合労働局雇用法制対策局次長)

座長：小野田富貴子、一木ひとみ

テーマ：労使関係の動向 定員：120名

会費：産業看護部会員 2,000円、産業衛生学会員 2,500円、非学会員 3,000円

事前参加申込書にてお申し込みの上、指定の方法で送金してください。

認定単位：日本産業衛生学会産業看護継続教育(実力アップ)単位申請中

懇親会

11月3日(土)18:30から
東京プリンスホテルD会場(3階 ゴールデンカップ)
会費 8,000円
定員になり次第受付を終了いたしますので、事前申込をお勧め
します。

事前参加登録

9月28日(金)まで
下記ホームページからも申し込みが可能です。

ポスターセッション演題申込

8月31日(金)まで
抄録(A4 版用紙1枚)、「産業衛生学会雑誌」掲載抄録(1行40
文字、400字以内)が必要です。

本協議会ホームページ

<http://www.ncopn17-tokyo.jp>

問い合わせ先

第17回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会事務局
〒160-0011
東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3F
(株)ヒューマン・リサーチ内(担当 田中)
Tel:03-3358-4001 Fax:03-3358-4002
E-mail:human_3@abox3.so-net.ne.jp



企画運営委員長・実行委員

奨励賞受賞の声

宮本俊明 (新日鉄君津)



この度、平成 19 年度日本産業衛生学会奨励賞を頂き、大変光栄なことと深く感謝しているとともに、身の引き締まる思いであります。お世話になった方々に心より感謝の意を表したいと思います。

近年、産業医に求められる活動範囲はどんどん拡大しています。さまざまな職種の従業員を抱え労働衛生活動のデパートとも言われる鉄鋼業に身を置く私にとって、多様な健康衛生問題に対応することは、産業医としてのモチベーションを高めてくれますが、正直なところキツイと感じることも少なくありません。そんな時に頼りになるのは産業看護職と衛生管理者です。このパートナーシップがなければ今の自分は存在していません。

現在の事業場に赴任して以降、産業医本来の役割と有用性を知ってもらうために労力を費やした時期を経て、いかにして会社や従業員に動いてもらうかというフェーズに移りました。その経過を通じて知ったことは、当然のことなのですが会社も人が動かしているということでした。もちろん啓発活動や根回しといったことは必要ですが、従業員の行動変容を狙うときと同じスキル+αを、タイミングを見計らって根気強く行えば会社が自発的に動くということが新鮮な驚きでした。現在では「従業員の心身において、就業条件に関連する健康障害を起こさない」という目標から始まる全社規程を制定し、そこでは産業医の立場を「会社および従業員の双方から独立した立場で公正な判断を行う」と明確化して、産業医の意見は尊重されるものとしています。

これからも、会社と事業場および従業員の現実に精通し、少しずつでも理想に近づける目標と信念を抱き、意欲と知識と応用力からなる「相手に頼られる」問題解決力を持つ、プロフェッショナル産業医を目指して行こうと思っています。最後に、私を推薦していただいた奨励賞選考委員会の各先生方に厚く御礼申し上げます。

産業保健実践活動報告(第 15 回)

斎藤知子 (沖電気工業)



産業保健の仕事に入って 20 年が過ぎました。自分の出身大学と家庭の近くで働くことにこだわりましたので、同一地域で 3 社目の職です。以前にいた職場の従業員から今も引き続き連絡が

入ります。専属産業医という会社に閉ざされた仕事も、地域や組合等の繋がりからブツブツと途切れた経歴にはならないという側面も解りました。卒後 30 年、同級生達が地域基幹病院の院長・部長となっていてくれるのも、社員を紹介するのには非常にやりやすいです。

産業保健のこの 10 年のテーマはメンタルヘルスケアでしょうか。メンタルヘルスの活動をくりひろげていくと、表面に上がってくるメンタル不全の人は増加します。そこで「何だよ、増えるばかりだ」と会社側からぼやかれます。しかしそれまで出ていた自殺は、たしかに出なくなりました。とは言っても、自殺の減少を社内で声を大にして言うのも憚られるものがあります(最近自殺予防法も一つの方向として打ち出されています)。

この 2 年、初めて民間会社に入り、その設計部隊の働きぶりに驚くとともに、帰属意識の高い素直な社員に対して、セルフケア・ラインによるケアの教育が綺麗に功を奏した貴重な体験をすることが出来ました。トップの英断と社風に支えられた成果には驚きでした。

自分に与えられ歩んだ道を思うとき、与えられた Humor を感じます。縁あって私がタバコ関係の会社に入社したころ、亭主は肺癌の仕事を始めました。そこで健康管理に努力すること、10 年あまり。今まで亭主や、最近では子供の過重労働を悩みつつ家庭を支えてきましたら、今度は会社でも過重労働をしつつ悩む社員達と接しています。

Black humor は洒落た Humor? 公私とも与えられた場を大切に生きていきましょう。閉塞の次には新たな感動の情景がやって来ます。

第 236 回例会報告

坂田晃一（住友金属鹿島）



2007 年 2 月 10 日(土)に東京大学弥生講堂・一条ホールで第 236 回例会を開催した。

東京都医師会との共催にて、日本医師会認定産業医研修、日本産業衛生学会産業看護継続教育

実力アップコース研修を兼ねて、3 名の先生方にご講演を頂いた。筆者(坂田)が当番幹事であり、中山哲郎(住友金属鹿島)が事務局を努めた。参加者は、学会員 156 名、非学会員 75 名の計 231 名であり、大勢の方々にご参加頂いた。

能川地方会長のご挨拶に続いて3題の教育講演が行なわれた。講師および演題名は、松島綱治先生(東京大学大学院教授)「職場における感染症対策としての予防接種の考え方」、濱田篤郎先生(海外勤務健康管理センター所長代理)「海外勤務者における健康管理上の問題」、森晃爾先生(産業医科大学副学長)「労働衛生マネジメントシステムによる産業保健の展開」であり、座長はそれぞれ能川浩二先生(千葉産業保健推進センター所長)、角田透先生(杏林大学医学部教授)、諏訪園靖先生(千葉大学大学院助教授)であった。講演においては最近の知見も示され、講演後の質疑応答も活発に行なわれるなど、多くの参加者に興味を持っていただける内容であった。

例会の開催にあたっては、講師及び座長の先生方、能川関東地方会長、地方会事務局の先生方及び会場運営の方々の多くのご協力、ご支援を頂いた。心より感謝申し上げる次第である。



第 237 回例会報告

武林 亨（慶應大・医）



2007 年 6 月 9 日(土)に慶應義塾大学医学部において、平成 19 年度総会ならびに第 237 回例会が開催され、会員 78 名、非会員 62 名、合計 140 名が参加した。

例会では、シンポジウムとして

「インジウム化合物の呼吸器影響－IT関連化学物質の健康リスク評価と管理を巡って－」を開催し、「化学物質の健康リスク評価に必要な基礎知識」(信州大・野見山哲生先生)、「間質性肺疾患の臨床像とインジウム肺」(慶應大・鎌田浩史先生)、「インジウム化合物の実験動物における有害性評価」(九州大・田中昭代先生)、「インジウム化合物曝露作業者の産業疫学研究」(慶應大・大前和幸先生)の4題の講演が行われた。

世界に先駆けて日本から症例報告、疫学研究報告が発信されたインジウム化合物の健康影響についての最新の産業医学エビデンスを巡り、リスク評価からリスク管理に至る幅広い話題が提供された。フロアからも産業現場の管理者を含むさまざまな立場から多くの発言があり、科学的かつ実践的なシンポジウムとして熱のこもった討議が繰り広げられた。

ご参加いただいた皆様ならびに運営に携わった方々に深く感謝いたします。



関東産業医部会報告

三好裕司 (明治安田生命)



関東産業医部会は昨年引き続き、以下 8 名の幹事が担当しています。今年度は 11 月 2 日から 4 日の第 17 回産業医・産業看護全国協議会の企画・運営に全力投球しております。

年 1 回の産業医研修会も全国協議会にジョイントして 11 月 4 日に実施いたします。なにぶん大事業です、それ以外の事業に手がつけられない状態ですが、年度内に関東産業医部会としての集まりをもつことを検討しております。

さて、日本産業衛生学会産業医部会は 2005 年 10 月、岡田章部会長を中心に産業医学振興財団から「産業医活動をする人のために」を発刊しました。従来の産業保健 How To 本に比べると、事業場の業種業態によって、産業医等の職務の重要度、優先度に差異があることを重視し、事業場のニーズをどのようにとらえ、どのように応えていくかに留意したものとなっています。産業保健活動の参考書としてお役に立てるものと考えております。2006 年 9 月の第 8 回関東産業医部会産業医研修会で取り上げたように、この書籍をもとに産業医研修会が開かれることも多くなっています。

また、「日本医事新報」2006 年 8 月 19 日号以来、「Axis 認定産業医 実践編」が隔週で連載されています。福本正勝副部会長を中心に、関東産業医部会ならびに全国の現場の産業医が分担して執筆しております。産業医部会として大きな足跡になると思います。

今後とも関東産業医部会の活動へのご協力、お引き立てのほどお願いいたします。

関東産業医部会幹事: 三好裕司(部会長)、福本正勝(副部会長)、西澤洋子、大野明彦、谷山佳津子、川名一夫、深澤健二、五味秀穂

関東産業看護部会報告

神保恵子 (NTT 東日本)



関東産業看護部会は部会長である私を含め 15 名の幹事で構成されている。内訳は各県の代表 1 ～ 2 名で東京からは 7 名である。1 年間に 3 回程度を目安に研修会を開いているが、ここ数年、東京

産業保健推進センターとの共催で研修会を実施している。研修会を開く上でネックになることは幾つかあるが、共催になったためにその 1 つである会場確保については改善できた。平日だと研修会への参加者が少なくなるので無理をお願いして土曜日の研修会も開かせていただいている。やや困ることは、産保センターの他の研修が無料なため、資料代という形でいただく会費をあまり高くできないことである。研修の PR も産業保健推進センターのホームページに掲載するので、以前よりは広く周知することが出来るようになった。しかしリピーターが多く新しい参加者が増えないことがまだ残る課題である。東京産業保健推進センター主催で行われる講習会も看護部会の実力アップコースの認定をとれるようになっている。4 月末には産保センターが九段下に移転したが、これからも良い連携ができることを期待している。

平成 19 年度は、東京で産業医・産業看護全国協議会が開かれることもあり、研修会は 2 回にすることにした。1 回目は 9 月 29 日(土)でテーマは「健康行動理論」。2 回目は 10 月 20 日(土)で「ソーシャル・マーケティング」、講師は 2 回とも松本千明先生で時間は 13:30～16:00 である。平成 20 年度には「特定健診・特定保健指導」が実施されるようである。それがなくとも、看護職にとって対象者の行動変容に働きかけるスキルは欠かすことができないものである。ここで改めて学ぶ機会を楽しみにしている。

現在の幹事は忙しい時間を割いて頑張っているが、今後もっと多くの 20 歳代、30 歳代の方々が活動に加わってくれることを期待したい。

関東産業衛生技術部会報告

吉川智明 (イーグル工業)

2007年2月2日(金)18時30分より、(株)ニコン大井製作所におきまして、第13回関東産業衛生技術部会研修会が開催されました。

今回は、北は新潟県、西は広島県、さらには台湾からも参加者が集い、総勢27名が参加して、「総合的な労働衛生管理を考える」をテーマとして2名の演者により講義が行われました。

はじめに、(株)黒羽ニコンの對木博一氏が、ニコングループにおける労務・安全衛生部門での経験に基づき、①労働基準法と労働安全衛生法の関係、②労務管理と労働衛生管理との係わり、③平成不況による職場環境の変化と従業員への影響、④人材ミックス等の雇用形態の多様化に伴うストレス要因増大、という大きな職域の環境変化と個人への影響に対して現代の背景の説明をされた。引き続き個別のテーマとして、ヒューマンエラーによる労働災害増加・過重労働問題・メンタルヘルス・生活習慣病の4つのカテゴリーに分け、労働衛生学的な方策について解説がありました。

4つのカテゴリーの共通問題としてストレスに着目し、職場の環境的ストレスと個人のストレス耐性について、企業は実態を十分に調査し、的確に捉えたうえで、確実な対策を立てることが重要であること、また「人」そのものを見つめ、労働衛生のみならず、労務管理面と一体化して活動を展開しなければならないことを提唱されました。

次に筆者が、労働衛生管理は経営管理の一つであり、業務を進めていく中での必須事項であること、品質・コスト・納期を分子とすると分母には安全衛生があり、いつでも安全衛生は業務推進上での基本理念であるということを述べました。

講演の後、活発な質疑応答がなされ、20時30分に無事閉会いたしました。

理事会報告より

角田 透 (杏林大)

2007年3月17日および6月2日開催

1. 学会誌への投稿数の増加に対して、編集委員会の委員定員の30人から40人への増員が認められた。
2. 会員名簿発行について:掲載内容は前回と同じで委員会・研究会・地方会を載せ、雑誌にFAX用紙を入れて掲載内容についての本人の意志を問い合わせることとなった。
3. 選挙制度について:電子投票制度のシステム整備を進めることが承認された。
4. 検討継続中の事項
 - 専門医制度のあり方・処罰規定
 - 石綿問題検討委員会提案
 - 功労賞推薦の要件について
 - 特定健康診査、特定保健指導に関する学会、部会からの要望について
 - 学会HPの改修と機能追加について
5. 第80回日本産業衛生学会について:学会参加者は2670人、特別研修会参加者は350人であった。
6. 第81回日本産業衛生学会は2008年6月24日～27日に、札幌市(札幌コンベンションセンター)で開催する。特別研修会は6月28日。
7. 第82回日本産業衛生学会は2009年5月20日～23日に福岡市で開催する。
8. 産業医部会から:第16回産業医・産業看護全国協議会の参加者が491名であったこと、第4回産業医・産業看護・産業衛生技術部会合同セミナーについての報告があった。
9. 産業看護部会から:産業看護師が1240人に増えた。第1回アジア産業看護学術集会は2008年2月23・24日に東京(日本科学未来館)で開催する。
10. 産業技術部会から:第16回大会を2007年11月に神戸市で開催する。
11. 専門医制度委員会から:登録者数(指導医259人、専門医131人、研修登録医415人)の報告があった。
12. 会員の状況について:正会員7377人(5月22日現在)の報告があった。

幹事会報告より

照屋浩司 (杏林大)

2007 年 6 月 9 日開催

1. 清水英佑日本産業衛生学会理事長、角田透地方会長、大前和幸理事(当番校教室主任)、武林亨当番幹事よりの挨拶と新事務局スタッフの紹介が行われた。
2. 石井出、加藤登紀子、岸田孝弥、佐々木司、諏訪園靖、廣尚典、柳澤裕之、山内博、山口直人 各幹事の辞任が承認された。代表して柳澤裕之氏の挨拶および地方会長からの感謝状贈呈が行われた。
3. 小島原典子、小林信男、立道昌幸、土地実礼、中野幸子、野寺誠、村田克 の各氏が幹事として承認された。
4. 平成 18 年度事業報告および決算、監査、平成 19 年度事業計画および予算が報告され、承認された。
5. 第 236 回例会の報告、第 237 回例会の詳細についての案内があった。
6. 第 238 回例会(一泊)・第 51 回見学会(企画運営委員長:小池裕司平塚市医師会会長、渡辺哲当番幹事)は、2007 年 8 月 3 日(金)~4 日(土)、ひらつかスカイプラザにて開催予定。見学会(3 日)は日産車体、古河電工、横浜ゴム。
7. 第 239 回例会(工藤光弘幹事)は、2007 年 12 月 15 日(土)に女性と仕事の未来館にて開催予定。
8. 第 240 回例会(立道昌幸幹事)は 2008 年 2 月に開催予定。
9. 関東産業医部会では平成 19 年度に 2 回の研修会を開催予定。
10. 平成 19 年度関東産業看護部会産業保健研修会は、第 1 回を 9 月 29 日(土)、第 2 回を 10 月 20 日(土)に、どちらも東京産業保健推進センターにて開催予定。
11. 関東産業衛生技術部会では平成 19 年度に 3 回の研修会を開催予定。
12. 第 17 回産業医・産業看護全国協議会(三好裕司企画運営委員長)は、2007 年 11 月 2 日(金)~4 日(日)に東京プリンスホテル、東京慈恵会医科大学にて開催予定。

総会報告より

照屋浩司 (杏林大)

2007 年 6 月 9 日開催

1. 日本産業衛生学会清水英佑理事長より挨拶があった。
2. 角田透地方会長より挨拶と、能川浩二前地方会長および退任した 9 幹事、1 編集委員に対する感謝状の贈呈があった。
3. 議長として武林亨当番幹事が選出された。
4. 平成 18 年度事業報告が諏訪園靖前幹事長より報告され、承認された。
5. 平成 18 年度会計報告が宮本俊明前事務局長より、監査結果が伊藤岩美監事より報告され、承認された。
6. 平成 19 年度事業計画(案)および予算(案)が承認された。
7. 第 17 回産業医・産業看護全国協議会について三好裕司幹事より案内があった。

おめでとうございます

日本産業衛生学会

奨励賞

宮本俊明先生

(新日本製鐵(株)君津製鐵所)

平成 19 年度 安全衛生に係る優良事業場、
団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰

功績賞

石渡弘一先生

(神奈川産業保健推進センター所長)

功績賞

後藤純雄先生

(厚生労働省変異原性試験等結果検討委員
麻布大学・環境保健)

研究室紹介

慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室

大前和幸



我が教室は、1929 年(昭和 4 年)に現在地に新校舎(Institute of Preventive Medicine)が竣工した際に豫防醫學教室として正式に発足しました。以後 78 年間、9 名の教授の下でバラエ

ティーに富んだ衛生学公衆衛生学研究が実施されてきました。

現在の当教室の研究活動は、環境医学・産業医学、環境毒性学、疫学・ポピュレーションヘルス、臨床疫学・生物統計学の 4 つの柱を中心に展開されており、社会的ニーズを踏まえた研究・実践をしています。

進行中の主なプロジェクトは、環境医学・産業医学分野ではインジウムスタディ、トナースタディ、三宅島スタディ、INTERPHONE スタディ、環境毒性学分野では有害要因複合曝露に対する健康影響評価方法の開発研究、疫学・ポピュレーションヘルス分野では倉渕スタディ、HIPOP-OHP スタディ、相鉄スタディ等があります。

環境・産業・地域疫学研究は、「自分でデータを集めること」を原則としているので、最近入室した大学院生が「衛生学公衆衛生学教室ってこんなに外に出て仕事しているのですか」と驚くほど学外出張が多い、「体力疫学」研究室です。

臨床疫学・生物統計分野では専用ユニットを開



設し、倫理審査における研究デザイン事前評価、臨床各科と連携し、臨床研究のデザインからデータ管理、データ解析に至る一連のプロセスに関与した質の高い臨床疫学研究の実現を担っています。

写真: 豫防醫學教室入口

通達・行政ニュース

工藤光弘 (中災防)

労働政策審議会は、2007 年 4 月 25 日に健康診断項目を一部改正する答申を行いました。その答申の内容は、雇入時の健康診断及び定期健康診断の項目について、①腹囲の検査の追加、②血清総コレステロールの量の検査に代えて、低比重リポ蛋白コレステロール(LDL コレステロール)の量の検査を定めることとしています。この答申を受け、近いうちに労働安全衛生規則の一部改正として公布されるものと考えます。

この答申を受ける前に、厚生労働省安全衛生部は、「労働安全衛生法(安衛法)における定期健康診断等に関する検討会」を設置し、医薬局が示した「標準的な健診・保健指導プログラム(確定版 2007 年 4 月)」に示された健康診断項目等を安衛法上、どのように取り扱うか検討してきました。最大の焦点は、安衛法における保健指導と高齢者の医療の確保に関する法律(高齢者医療確保法)に基づく特定保健指導の取扱いで、検討会での結論は、両者を併せて実施することは、労働者に対してより効果的、効率的な指導ができるので、特定保健指導を実施する事業者に対して、特定保健指導の委託ができるようにすることが望ましいと結論づけています。

高齢者医療確保法では 40~74 歳の被医療保険者を対象に、内臓脂肪型肥満に着目した特定保健指導を義務づけていますが、安衛法では、事業者が安衛法に基づく保健指導を行う際、事業者が望むならば併用して行うことが望ましいとの考えです。

なお、特定保健指導とは、特定健診の結果により健康の保持に努める必要がある者に対する保健指導で、特定健診は、糖尿病等の生活習慣病に関する健康診査のことです。

その他、厚生労働省は、「石綿業務に従事した離職者に対する健康管理についての報告書(2007 年 3 月)」を踏まえ、石綿に係る健康管理手帳の交付要件等の見直しを行うことを発表しております(2007 年 4 月)。新たな交付要件としては石綿ばく露作業の従事期間を考慮に入れることです。いずれ政令が改正されるものと思います。

3部会フリーページ

産業衛生技術部会の紹介

産業衛生技術部会 部会長 名古屋俊士
(早稲田大学創造理工学部環境資源工学科)



この度、田中勇武前部会長より引き継ぎ部会長に就任しました名古屋俊士です。日本産業衛生学会で会員数最大である関東地方会のニュースの場で、部会としての今後の方針を述べさせていただきたいと存じます。

現在、産業歯科保健部会が加わり産業医部会、産業看護部会及び産業衛生技術部会の4部会となりました。特に毎年秋、産業医部会と産業看護部会は、産業医・産業看護全国協議会を共同で開催しております。産業衛生技術部会は従来から、秋の部会大会は中央労働災害防止協会主催の産業安全衛生大会と同時開催を行ってきました。

産業衛生技術部会として、全国協議会への関与など今後の他部会との連携について検討してまいりました。その結果、秋の部会大会は来年度以降も独自に開催することにしました。ただし、他の部会と要所所でコラボレートすることとし、合同幹事会など各部会との情報交換には積極的に参加する方向で検討しております。

これは、学会内での産業衛生技術部会の役割の一つとして、特に衛生管理者、作業環境測定士及び産業医など産業衛生技術を中心とした産業衛生の知識を必要としている人々に対して、最新の情報を提供すること及び再教育を兼ねた労働衛生工学基礎講座などを実施することが、産業衛生技術部会の使命であり産業衛生技術の底上げにもつながると考えたからです。

例えば、アスベストが大きな社会問題になった時、アスベストの報道を見ていると、正確な情報が伝わらないもどかしさを実感しました。つまり、「どのような状態でアスベストがそこにあるのか?」「どんな測定法で測定し、どのくらいの濃度で存在しているのか?」「そこにあるアスベストの種類は何か?」等、正確に把握し冷静に判断すれば何でもないことが、一般社会に正確な判断が出来る知識と情報が乏しいために、ただいたずらに怖さだけが強調されてしまったことです。こうしたことに遭遇すると、正確な判断法を情報として伝えられなかった非力さを痛感する次第です。

次年度以降、どれくらいこのことが出来るか分かりませんが、産業衛生技術部会として決めた目的に向かって、幹事を始め、会員の皆様と共に努力し進むつもりでおります。



関東産業衛生技術部会研修会

学 会 等 開 催 予 定

第 238 回関東地方会例会(一泊)・第 51 回見学会

日時:2007年8月3日(金)~4日(土)

会場:ひらつかスカイプラザ(神奈川県平塚市)

見学会:日産車体、古河電工、横浜ゴム

当番幹事:渡辺 哲(東海大)

第 239 回関東地方会例会

日時:2007年12月15日(土)

会場:女性と仕事の未来館(東京都港区)

当番幹事:工藤光弘(中災防)

第 240 回関東地方会例会

日時:2008年2月予定

当番幹事:立道昌幸(昭和大)

第 17 回産業医・産業看護全国協議会

日時:2007年11月2日(金)~4日(日)

会場:東京プリンスホテル(東京都港区)

東京慈恵会医科大学(東京都港区)

企画運営委員長:三好裕司(明治安田生命)

平成 19 年度関東産業看護部会 産業保健研修会

第 1 回 日時:2007年9月29日(土)13:30~16:00

第 2 回 日時:2007年10月20日(土)13:30~16:00

場所:第1、2回ともに東京産業保健推進センター

第 1 回アジア産業看護学術集会

日時:2008年2月23・24日

場所:日本科学未来館(東京)

企画運営委員長:河野啓子(四日市医療大学学
長)

第 66 回日本公衆衛生学会

日時:2007年10月24日(水)~26日(金)

場所:愛媛県県民文化会館(愛媛県松山市)

学会長:小西正光(愛媛大学大学院医学系研究
科教授 公衆衛生・健康医学)

第 55 回日本職業・災害医学会

日時:2007年11月2日(金)~3日(土)

場所:名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

会長:堀田 饒(中部労災病院院長)

第 15 回日本産業ストレス学会

日時:2007年12月7日(金)~9日(日)

場所:杏林大学三鷹キャンパス(東京都三鷹市)

大会長:角田 透(杏林大学医学部教授 衛生学
公衆衛生学)

編集後記

最近頭を悩ませる問題として、次年度から始まる特定健診・特定保健指導があります。画期的な施策と思える反面、従業員へのサービスにかなりの不平等が発生する可能性があり、かつ産業保健スタッフの業務量増加に見合うほどの効果が出るのかとの危惧もあります。ただし、共通の数値評価項目が提示され、これが産業保健活動評価の1つの指標として使われる可能性もあり、軽視はできないという心配もあります。そこで、従業員の蓄積した内臓脂肪を減らすための施策を考えると同時に、ミニマム(やせ細った)となってしまった企業内産業保健スタッフを、質と量の両面から強化する貴重な機会と考えれば、前向きに検討をできるのではないかと考えています。(坂田)

2007年も後半となりました。前半のトピックである高齢者医療確保法と調和するための安衛則改正は、昨年の安衛法改正が労働者保護の観点では納得がいったのと対照的に、今回は職域の健康診断の目的が本旨から音を立てて離れていくようで驚愕しました。これまで産業医としての意見を求められたときには「仕事と健康」の調和を考え結論を出してきました。今から心配なのは、「適正配置のためにどうして腹まわりを測るのか?」「そんなにメタボが悪いなら、管理職適正者から外したい」と言われたときには何と答えたらよいか、わからないことです。わが国は、業務の内容により業界や企業に自律的に健康管理体制作りを委ねるマネジメントシステムが導入されて来たのではなかったのでしょうか。関東地方会ニュースで、その辺りを解明してみたいものですが...(初見)

編集委員名簿

稲垣弘文、今井常彦、大久保靖司、小峰慎吾、
坂田晃一、田中三千代、照屋浩司、初見智恵、
原美佳子、三浦善憲、宮越雄一、宮本俊明、
村仲良子、山瀧 一、山野優子、山本健也

(50音順)

編集委員長 事務局